

J O M A 通 信

1984. 9. 10 No.24

海外宣教連絡協力会公報
Japan Overseas Missions
Association

発行者 芳 賀 正

事務局 東京都杉並区高井戸東2-25-11-308 TEL (03) 332-5129

海 外 宣 教 連 絡 協 力 会

JOMAの性格とJOMAへの期待

舟 喜 順 一

日本においてキリストの教会の超教派的な団体、あるいは教派間協力による働きには、協議機関的なものと、特定の目的をもつ実行機関ないしは団体の二通りが見られると思う。

1. 協議機関的なものの場合、国内の諸教会の協議による協力、意見の交換、情報の交換のための常置の協力体制とか、必要に応じて特設される超教派的な伝道活動のための組織、また特定の目的のために建てられた同種の伝道団体の協議会のようなものが考えられるが、国内の諸教会、諸団体の協議がなされるのであるから、たとえ、その加盟団体が海外の団体と密接な関係があるにしても、その協議会が国外の団体の指導下に置かれることは、ありえない。JEAとか、JPC、JEF、あるいは日本伝道会議のような働きは、この類に属すると思われる。

2. 特定の目的をもつ実務機関としての超教派団体は、国内の諸教会の間で特定の目的をもって、それらの教会のいわば手足としての働きをするために、諸教会の合意によって、あるいは、そのための使命を与えられた特定の人々の自発的な、信仰の行為として、始められる場合が多い。KGK

とかCSKなどはその部類に属すると言えよう。

この場合、既に諸外国に同種の働きがあることに触発されて、日本の教会の重荷として、同様の働きが設立され、さらに国際団体に加盟し、協力関係を維持していく場合も少くない。聖書同盟、ウイクリフ聖書翻訳協会などはこの部類に属すると言えると思う。

しかし、日本の教会が、そのヴィジョンをもつに至らず、あるいは、その能力を欠くという判断の下で、単数または複数の宣教師団または世界的な視野ですでに始められている特定領域の伝道のために実績を積んでいる団体が、日本を宣教地として選び、その団体に寄せられる献金によって、その働きを始める場合も少くない。それらの働きは、国外の超教派団体の支部が、日本に設けられるという形をとることになる。

そのような働きも、日本の教会の成長の中で、次第に実質的責任が日本の教会、キリスト者たちに委ねられていくようになることは、当然期待されるべきことであろう。PBA、Hi-BAなどはそのような意味で健全な成長をとげ、あるいは遂げつつあると思われる。

しかし、海外の伝道団体の中には、いつまでも直接、責任をとり続けようとする場合もある。キャンパス・クルセードはその一例であろう。

私たちのJOMAは、超教派団体であることは、

まぎれもない事実であるが、以上の分類を一応認めるるとすると、そのどれに属するものであろうか。JOMAは第一にあげた協議機関的なものの中の同種の伝道団体の協議会という性格をもっているというべきであろう。

実は三年前に、規約が変更されたとき、JOMAのもっていた実務機関的な性格、すなわち、JOMAが直接宣教師を派遣する団体であることを可能とする規定が削除されたことによって、今述べたことが、明確になったのである。JOMAが初め設立されたときには、特定の少数の宣教師の派遣のために建てられた海外宣教団体が多く、しかも、その役員が重複する状況下で、諸教会から、窓口を一本化する要望があった中で、その要望に答えることを目的の一つに掲げていたのであったが、その後、諸宣教師派遣団体の実績が重ねられる中で、この面での努力は衰退し、むしろ、諸宣教団体の協力による海外宣教のための協力また海外宣教に関する諸教会の理解を深め、重荷をになうための啓発活動、教育活動、また海外諸宣教団体協力会との連絡などが、優先されるようになったと思われる。

その中で、JOMAの性格が検討され、宣教師派遣のための実務機関ではなく、諸宣教師派遣団体または、教会の海外宣教部を加入資格とする、協議団体であることを定め、その目的を明確化したのであった。

協議機関としてのJOMAの働きは、そのような意味で、極めて地味で、いわば縁の下の力持的なものであると思われるが、宣教師派遣という実質的責任をもつ各団体が個々では手がまわりかねるような共通の課題を果すために重要な役割をもっている。協力諸教会に、日本からの海外宣教の現況を知らせ、祈りを求めるための働きや資料を用意し、時機に応じて、海外宣教師との懇談会、海外宣教団体の指導者の方々との懇談、資料の収

集、頒布などを行ない、同時に、未加盟の福音的な宣教団体の加盟をも求めていくことなどである。

11月に行なわれる宣教懇談会には、その意味で大きな期待が寄せられている。その時までには、OMFの指導者デニス・レイン師による講演や質疑応答のテープを、文書化して、諸教会、諸団体の御役に立てたいと役員会は準備を進めている。

日本の教会の海外宣教の歴史は浅く、また新しい時代の中で、新しい宣教地の必要に応えなければならぬので、ただ宣教師を送ればよいという状況にないことは明らかである。宣教師を送るためには、まず国内の教会が、海外宣教が具体的に何であるかを学び、それに対応する必要がある。宣教師個人に依存する、デピュテーションのために、宣教師が疲労したままで、現地に戻ることも少くないこと、また、現地での、別の諸団体に属する宣教師間の協力の問題、宣教師の医療、子弟の教育、休暇時の休養の場所の確保など、宣教師を送る諸教会、諸団体にとって、問題は山積していると思われる。このような仕事は、実際に、宣教師が現地での働きを体験する中で、一つ一つ問題とされ、その解決が求められる中で、派遣団体自体も学び、またそれに即応する態勢を整えていくべきことなので、そのためには一つ一つの実務機関としての宣教師派遣団体が互に協力して助け合い、励まし合うことがぜひ必要なのである。一時的な便宜のためでなく、日本の教会の海外宣教の健全な努力が、主のみことろの中で、進められるために、JOMAの働きの意義を確認し、この働きを育てていきたいと思う。加盟団体の会費によって運営されるこのJOMAは、それにふさわしく加盟団体の必要に応えることが期待されるが、それだけでなく、広く日本の諸教会が、海外宣教の使命を与えられた人々の使命を果させるために、よりよい態勢を整えることができるようになるために、積極的に用いられなければならない。

良書紹介

「奉天三十年」

D・クリスチー著、矢内原忠雄訳
岩波新書

「奉天三十年」D・クリスチー著、矢内原忠雄訳(上・下)は、岩波新書の1.2にあたる。今日これを書店で見出すのはむづかしい。

きくところによれば、岩波書店主の岩波茂雄氏が1938年(昭和13年)、当時東大教授職を追われ浪人中の矢内原忠雄氏に翻訳を依頼された。これが岩波新書の発端となった由である。

著者デュカルト・クリスチーはスコットランド人で医者である。彼は1883年(明治16年)伝道医師として、中国の東北部(当時満洲と言う)の奉天に来て、1922年(大正11年)老令のため、故国に帰るまで、40年にわたり満洲人のため、医療及び伝道の生涯をささげた人である。

これを読んでいるうちに「使徒の働き(使徒行伝)の続きを読んでいるような錯覚におそわれた。その筆致は淡々として、いささかの自負もなく、人となりが謙遜で憐れみ深いことがわかる。

30年間の政治的出来事は、日清戦争、拳匪事変、日露戦争、民国革命等、社会的事変としては、1888年(明治21年)の大洪水、1900年(明治33年)の基督教徒大迫害、1911年(明治44年)の肺ペストの流行等であった。

政治的社会的事件を含む満洲の歴史の側面を記して興味がある。とくに日清日露両戦争を通じて、満洲と深く関係した日本にとって、現場での様子の描写はまことに重大な暗示に富むものである。

開読一番、「値するか」は若き伝道医師に投げかけられた批判と非難であった。「これはドン・キホーテ的な事業なのであろうか。五指を以て数うに過ぎぬ外国人が、之等数百万人の間にありて何を為し得るであろうか。—それから30年

経過した。—無事泰平な年月ではなかった。併しやってみる値打はあった。」(上巻2.3頁)

今日海外宣教を考えるにあたり、宣教師の原点を「値するか」にみたおもいがした。(深沢健一)

J O M A 加盟団体 (50音順)

1. アジア福音宣教会

〒602 京都市西陣郵便局私書箱88号
TEL 075-432-1025

2. アンテオケ宣教会

〒330 大宮市東新井17-2 片柳福音自由教会内
TEL 0486-85-9108

3. 海外宣教交友会(OMF)日本委員会

〒184 小金井市小金井郵便局私書箱11号
TEL 0423-84-2764

4. 国際ウイクリフ聖書翻訳協会日本委員会

〒168 東京都杉並区浜田山4-31-7
TEL 03-313-5029

5. 聖書同盟

〒168 東京都杉並区高井戸東2-25-11
エザンス高井戸308号
TEL 03-332-5129

6. 世界宣教協力会

〒540 大阪市東区森ノ宮中央1-16-15
三双ビル2F TEL 06-945-1040

7. 東洋ローアキリスト伝道会海外宣教委員会

〒350-04 埼玉県入間郡毛呂山町
大字市場1132-1
TEL 0492-94-6012

8. 南米宣教会

〒156 世田谷区松原2-29-19 朝顔教会内
TEL 03-321-6722

9. 日本アッセンブリー教団海外伝道部

〒170 豊島区駒込3-15-20
TEL 03-918-5935

10. 日本福音自由教会海外宣教委員会

〒332 川口市飯塚1-17-4 川口福音自由教会内
TEL 0482-53-0434

11. 日本ホーリネス教団海外宣教委員会

〒189 東村山市廻田町1-30-1
TEL 0423-94-7466

12. PBA海外電波宣教を支える会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
OSCCビル TEL 03-295-4921~3

———— J O M A 役員会報告 ————

1. 84年度の役員と分担は次のとおりです。
芳賀正（会長，海外宣教交友会日本委員会），
内村徹母耳（副会長，日本アッセンブリー教団
海外伝道部），深沢健一（書記，PBA海外電
波宣教を支える会），舟喜順一（会計，聖書同
盟）。

2. 役員会は4月16日，6月19日，7月24日，8
月13日の計4回開かれ次のような事が話し合わ
れました。

- ・事務所の移転とそれに伴う会計上の措置。
- ・今秋11月19日（月）に宣教団体責任者懇談会
を開くこととその為の準備について。
- ・前年度のセミナー（講演者D・レーン師）の
講演を録音テープをもとにして今秋までに出版
する計画について。
- ・5月に出されたJOMA宣教地図の普及と頒
布について。

— 宣教団体責任者懇談会開催のお知らせ —

JOMAでは，今年度の事業の一環として，海外
宣教団体の責任者及び実務担当者が参加する懇
談会を下記の通り，開催することになりました。
日本の教会の今後の海外宣教の展望のため，よき
話し合いができるよう，お祈りください。

期 日 1984年11月19日（月）

場 所 東京・浜田山キリスト教会

— J O M A 世界宣教地図最新版のご案内 —

JOMA加盟団体派遣宣教師の写真及び住所入
りの世界宣教地図の最新版（1984年3月現在）が出来
上りました。海外で労しておられる宣教師の方
方を祈りに覚えるため，ぜひご利用ください。

頒布価格：1部100円（送料別。送料は部数によ
って変わります。送付時に請求書を
同封致しますので，郵便振替にてお
支払い下さい。）

郵便振替口座：東京6-106631

海外宣教連絡協力会

お申込み，問合わせは，事務局へどうぞ。

J O M A 会計報告

		83年度 予 算	83年度 決 算	84年度 予 算
収 入 の 部	会 費	504,000	462,000	546,000
	献 金	20,000	41,000	20,000
	雑 収 入	250,000	294,319	200,000 ※1
	前年度繰越	116,197	116,197	217,570
	計	890,197	913,516	983,570
支 出 の 部	JOMAセミナー	60,000	158,970	70,000
	JOMA文書費	400,000	271,700	400,000 ※2
	役員会費	30,000	60,580	70,000
	総主事費 （事務所費）	200,000	47,150	220,000 ※3
	事務費	100,000	103,416	110,000
	総会費	30,000	9,190	30,000
	予備費	70,197	44,940	83,570
	小 計	890,197	695,946	983,570
次年度繰越		0	217,570	0
計		890,197	913,516	983,570

注※1 JOMA宣教地図の売上を計上いたしました。

※2 JOMA通信の年2回発行費用とセミナー小冊子の印刷費用を計上いたしました。

※3 高井戸事務所の開設にともない事務所費と科目名を変更いたしました。